



## 当たり前を疑う。空気を読まない。 現場に出て行く。「女のくせに」を蹴飛ばす。?

—上野千鶴子・望月衣塑子から学ぶ—

堀込 康美 (元高校教諭)

### カッコいい2人の女性

政治関連、特に安倍内閣の一連のニュースを見るたび聞きたび、もやもやしたり、頭にきたり、あきれたり、うんざりしたりの毎日である。そんな中、パワーをもらえた、カッコいい2人の女性について書きたい。

#### 「あなたはどう考えるの？」

まず、10月10日、上野千鶴子（東京大学名誉教授）の講演を館林で聞くことができた。館林女子高校が総合学習（女性学）の授業の一環として彼女を招いたからである。「良くやった！館女。えらい！」

前女の春山さんから連絡があり、女友達4人で遠路、館林まで出かけた。清陵高校の田口さんや何人かの見知った女の先生も見かけた。出張で来られた人もいたのに、春山さんは研修でもなく有給取って前女の記念講演の講師に上野さんと呼ぶための交渉をしていた。

「前女の校長、なんで出張にしないの？これ、おかしくないですか？」

講演の内容も興味深かったが、彼女の「当たり前を疑う」姿勢の徹底ぶりに感心した。女子高生を前に「群馬って何で共学ではないの？女子ばかり、同じ服来てみんな行儀良く座っているって不思議だね。」から始まり「アダルトビデオって何のためにあるか教えるね。」という展開・・・きわどい話なのになぜか気持ちよく笑えた。後半は館女生5人とのパネルディスカッション。生徒が上野さんに質問すると、ことごとく「あなたはどう考えるの？」と返され、そこから生徒の頭の中が回転し始めるのが見ている方にも伝わって面白かった。教師は教えすぎである。

### 圧力・脅迫に屈しないタフさ

2人目は東京新聞の記者望月衣塑子。キャリアバッグを転がし現場に出て行く。菅官房長官に果敢に食い下がり、一時記者会見会場に出入り禁止になっていた人である。彼女の講演を10月22日、玉村で聞いた。12月には伊勢崎で森達也監督の彼女を追った社会派ドキュメンタリー映画「i 新聞記者ドキュメント」を見てきた。もやもやしたものがスカッとした。ウソとごまかしの安倍政権が醸し出す「長いものには巻かれろ・空気を読め・付度しろ・権力には逆らうな・場をわきまえろ・女のくせに・・・」これにことごとく逆らい、数々の圧力に屈しないからである。ネットでの「いつか殺しに行くぞ」との脅迫にも動じないタフさがすごい。それなのに国会議事堂での団体行動ではぐれて置いて行かれ、森監督の「彼女は団体行動が苦手らしい。そして方向音痴らしい」のナレーションに笑えた。彼女の、敢えて空気を読まないのではなく空気が読めない、人の言うことがあまり気にならない、この性格が今、強い武器になっているのだと感じた。

### 2人から学んだこと

実はもやもやの元は、安倍政権ではなく、つつい他人の評価が気になり、自己規制したり、世の中こんなもんだと諦めたりしている自分の中にあるように思う。「で、あなたは どう考えるの？ どうしたいの？」と自問し、一番大切にしなければならないことは何かを考え、おかしいと思ったら声を上げ動いてみることから始めよう。これが、2人から私が学んだ事である。